



問い合わせ先
観光庁 観光産業課
金・中井（内線 27-321, 27-325）
直通：03-5253-8330

平成 21 年 11 月 25 日

主要旅行業者の旅行取扱状況速報 (平成 21 年 7 月～9 月分)

- 海外旅行の対前期比は、20.7%減
- 外国人旅行の対前期比は、26.7%減
- 国内旅行の対前年同期比は、9.0%減
- 総取扱額の対前年同期比は、13.7%減

1. 総取扱額

区分	取扱額（千円）	前年同期取扱額（千円）	前年同期比（%）
海外旅行	581,236,388	732,769,953	79.3
外国人旅行	11,831,713	16,134,508	73.3
国内旅行	1,034,066,727	1,135,718,056	91.0
合計	1,627,134,828	1,884,622,517	86.3

（総取扱額は主要旅行業者 62 社の取扱額の合計）

2. 主要旅行業者からのコメント

（1）平成 21 年 7～9 月の取扱状況について

海外旅行：景気の後退や消費の不振による旅行手控えや、新型インフルエンザの影響により夏季の語学研修等教育旅行も落ち込んだが、燃油サーチャージの値下げや 9 月のシルバーウィーク等が下支え要因となった。

国内旅行：新型インフルエンザによる実施時期変更や海外からの方面変更により教育旅行は好調であったが、景気低迷による団体旅行、業務出張の減少は続いており、全体としては前年を下回った。

外国人旅行：景気後退・円高・新型インフルエンザの流行による旅行手控えが継続し、特に新型インフルエンザの流行によるアジア地域からの旅行者の減少が大きかった。

（2）平成 21 年 10～12 月の見通し（参考）

海外旅行：企画商品の受注状況は低価格志向が強いものの、需要が顕在化している。また、燃油サーチャージの値下げや円高も継続すると思われるため、良化の兆しが見えるが、景気低迷や教育旅行が国内に方面変更されていることもあり、不調は続く見通し。

国内旅行：新型インフルエンザの影響による実施時期の変更もあり、教育旅行は増加が見込めるが、団体旅行や業務渡航等は回復には至らず、全体としては前年を下回る見込み。

外国人旅行：景気後退、円高の継続により、前年並みには回復しない見通し。

主要旅行業者の総取引額の対前年同期比の推移 (平成20年10~12月分~平成21年7~9月分)

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	(参考)10~9月
海外旅行	88.9	81.6	67.2	79.3	79.5
外国人旅行	82.7	83.1	79.3	73.3	79.6
国内旅行	98.9	90.8	85.7	91.0	91.8
合計	94.9	87.1	78.5	86.3	86.9

